

これまでの支援等については、通所者、入所者いずれについても、養育者が回答した（表 13～21）。子ども時代に発達の心配を感じた者に限ると、通所者では、心配を感じた月齢は入所者とさほど変わらないが、相談や診断は遅れていた（表 13）。小中学校は、通所者では通常学級、入所者では特殊学級（特別支援学級）と養護学校（特別支援学校）に通った者が多かった（表 17, 18）。就学前に療育を受けていた者は、通所者で 37.8%、入所者で 80.5%であり、頻度は週に 1～2 回がもっとも多かった（表 20）。

3. 社会参加に関連する要因

有効回答が得られた 581 人のうち、分析に十分な情報が得られた（通所者では養育者、入所者では養育者と施設職員の両方から回答があった者）407 人（男性 80.0%；年齢 18-49 歳、平均 30.3 歳）を対象に検討した。

支援の継続があった者（平均 2.79, SD = 0.87）は、そうでない者（平均 2.43, SD = 0.90）より、有意に社会参加得点が高かった。また、母親が「助けになっている」者（平均 2.69, SD = 0.89）は、そうでない者（平均 2.19, SD = 0.94）より、有意に得点が高かった。

就学頃の言語水準との交互作用は、いずれの要因においても有意ではなかったが、いくつかでその傾向（ $p < 0.2$ ）があった。就学頃に文章を話していた者において、早期発見された者（平均 3.00, SD = 1.25）は、そうでない者（平均 2.47, SD = 0.93）より

有意に得点が高かった。就学頃の言語水準が二語文以内であった者において、父親が「助けになっている」者（平均 2.80, SD = 0.81）は、そうでない者（平均 2.45, SD = 0.94）より有意に得点が高かった。

言語水準を考慮し、社会参加得点を従属変数とした重回帰分析（ステップワイズ法）を行ったところ、就学頃の言語水準が二語文以内であった者で父親の支援が有意に関連した（ $p = 0.03$ 、調整済 $R^2 = 0.02$ ）のみで、就学頃に文章を話していた者では、いずれの要因も関連が有意でなかった。

D 考察

PDD 者の場合、「本人なりに持てる能力を発揮し、社会に参加できる」ことは極めて重要な予後の側面で、それは必ずしも知的技能の習得によって達成されるものではない。本研究の結果からは、今後の PDD 者の支援を考える上で、いくつかの有用な示唆が得られた。

PDD 者の社会参加には、幼児期からの支援継続の有無が関連する可能性が示された。ライフステージに応じた支援を継続的に行うことで、本人や周囲の理解が進み、生活環境が整備され、相応しい社会参加を実現できるのかもしれない。

就学頃に文章を話していた者（≡高機能 PDD 者）では、社会参加に早期診断の有無が関連する可能性が示された。早期診断を受けた者は、かつて相対的に症状が明確であったと予想

されるが、一方で、現在の社会参加は相対的に良好と評価され、この結果は、高機能 PDD 児を含めた早期診断、早期介入の重要性を示唆するものである。

就学頃の言語水準が二語文以内であった者の社会参加得点には、父親の支援の有無が有意に関連し、その関連は変数間の影響を考慮しても不変であった。PDD 児の養育は相応の育児困難を伴うと想定され、母親に対する心理的なサポートの上でも、父親の協力は重要である。夫婦の協力が子どもの精神的な安定、ひいては良好な社会参加につながるのかもしれない。

本研究の限界としては、振り返りでのデータ収集であること、対象者が施設を利用している者に限られること、回答に欠損が多いこと、などが挙げられる。

E 結論

全国調査をもとに、PDD 者の社会参加の程度と、それに関連する要因を検討した。多様な限界から結果の解釈には十分な注意が必要であるが、本研究は、PDD に対する早期介入、父親の育児協力、ライフステージに応じた支援の継続の重要性などを示唆するもので、今後はより精密な研究を進める必要がある。

(謝辞)

快く調査にご協力いただいた施設職員の皆様、ご家族、ご本人の皆様方に、心より感謝申し上げます。

F 健康危険情報 なし

G 研究発表

1. 論文発表

- ・ 小山智典, 稲田尚子, 神尾陽子: ライフステージを通じた支援の重要性: 長期予後に関する全国調査をもとに. 精神科治療学 24(10): 1197-1202, 2009.

2. 学会発表

- ・ 小山智典, 稲田尚子, 神尾陽子: 広汎性発達障害におけるライフステージ別の要因と長期予後との関連. 第 50 回日本児童青年精神医学会総会, 京都, 2009.10.1.

H 知的財産権の出願・登録状況 (予定を含む)

1. 特許取得 なし
2. 実用新案登録 なし
3. その他 なし

I 参考・引用文献

- 1) 小山智典ほか: ライフステージにおける種々の要因と長期予後との関連に関する検討. 平成 20 年度厚生労働科学研究費補助金 (障害保健福祉総合研究事業)「ライフステージに応じた広汎性発達障害者に対する支援のあり方に関する研究: 支援の有用性と適応の評価および臨床家のためのガイドライン作成 (研究代表者: 神尾陽子)」総括・分担研究報告書, 11-41, 2009.

平成21年1月吉日

都道府県政令指定都市
発達障害者支援センター
センター長 各位

「広汎性発達障害者への支援のあり方に関するアンケート」
ご協力をお願い

国立精神・神経センター 精神保健研究所
児童・思春期精神保健部 部長
神尾 陽子

時下、貴職におかれましては、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

さて、先般、連絡協議会からご連絡していただきましたように、厚生労働省で計画されております平成20年度 厚生労働科学研究「ライフステージに応じた広汎性発達障害者に対する支援のあり方に関する研究（主任研究者：神尾陽子）」につきまして、あらためて調査の主旨をご理解の上、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

この研究は、成人になった広汎性発達障害の方の、過去から現在までの生活への適応状況を調べ、良い適応に資する支援のあり方を明らかにする目的で行っております。発達状況や広汎性発達障害それ自体の症状以外にも、適応の良し悪しに影響する要因が複数あると思われませんが、そうした要因を整理することで、ライフステージのどの時期における、どのような支援が成人後の適応に影響するのか、エビデンスに基づいて提案したいと思っております。

連絡協議会でご審議いただき、全国の施設へのご依頼を許可していただきましたので、あらためてお願い申し上げます。

業務ご多用中とは存じますが、研究主旨をご理解いただき、ぜひ本調査へのご協力をいただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

具体的な手続きに関しましては、別紙の実施要項をご覧ください。実施に際してご不明な点がございましたら、下記までご連絡ください。

新年を迎え、お忙しいなか大変恐縮ですが、どうぞよろしくお願いいたします。

連絡先 国立精神・神経センター 精神保健研究所
児童・思春期精神保健部 部長 神尾陽子

Tel : 042-341-2712 (ext.****) e-mail: ****@ncnp.go.jp

「広汎性発達障害者への支援のあり方に関するアンケート」
実施要領

お忙しい中、ご協力をありがとうございます。

＜対象者＞ 18歳以上の広汎性発達障害の方(すでに診断を受けている方)3名以上
ご本人とその養育者(親)(いずれか一方のご協力でもかまいません)

＜期間＞ 平成21年1月13日(火)から2月13日(金)まで

*その間に来所した人数、アンケートを依頼した人数について、「実施状況連絡票」にご記入いただきますので、よろしくお願いいたします。

＜実施方法＞

対象者1名分のアンケートは以下から成ります。ご確認ください。

- ① アンケートについての説明文書
- ② アンケートについての同意書
- ③ アンケート(養育者用)(茶色の封筒に入っています)
- ④ アンケート(本人用)(白の封筒に入っています)
- ⑤ アンケート(支援者用)

*③、④は資源節約のために、返信用封筒に入っています。

*アンケート一式は個別のIDで管理されておりますので、ばらばらにならないよう、くれぐれもご注意ください。不要になった場合等は、別の方で使用することはせず、破棄するようにしてください。

1. 対象者に説明文書(①)を手渡し、同意書(②)に名前を書いてもらう
2. 同意が得られた対象者にアンケート(③、④両方またはいずれか)を渡す
*本人がアンケートの内容を理解することが困難な場合には、本人用アンケート(④)は破棄し、養育者にのみ依頼してください
*養育者が死亡や高齢などの理由で、回答困難な場合には、養育者用アンケート(④)は、支援者の方がお分かりになる範囲で、ご回答ください
3. 支援者用アンケート(⑤)にご回答ください

1.~3.の手続きをご協力してくださる方全員にお願いします。調査期間が終了しましたら、全員分の同意書(②)と支援者回答(⑤)をとりまとめて、別紙「実施状況連絡票」に必要事項を記入し、返信用封筒にて、平成21年3月31日(火)までに調査事務局までお送りください。

さらにアンケートの部数が必要な場合は、いつでもご連絡ください。また、ご不明の点がありましたら、下記までご遠慮なくお尋ねください。

連絡先 国立精神・神経センター 精神保健研究所 児童・思春期精神保健部
神尾陽子

Tel : 042-341-2712 (ext.****) Fax: 042-346-**** e-mail: ****@ncnp.go.jp

「広汎性発達障害者への支援のあり方に関するアンケート」に
ご協力いただける方へ(説明文書)

1. 調査目的について

このアンケート調査は、平成20年度 厚生労働科学研究「ライフステージに応じた広汎性発達障害者に対する支援のあり方に関する研究(主任研究者:国立精神・神経センター精神保健研究所児童・思春期精神保健部 神尾陽子)」の一環として実施しております。

このアンケート調査の目的は、現在、成人になられた広汎性発達障害(自閉症など)の方々の、現在とこれまでを詳しくお尋ねすることによって、ひとりひとりが充実した社会参加を実現するための支援のあり方を、より正確に理解し、明らかにしようとするものです。お答えいただく内容は、これから支援を受けようとする広汎性発達障害の方々や養育者の方々に対する支援を計画するときに、活用できる手引きの基礎となる、貴重な資料となるはずです。

このアンケート調査の趣旨をご理解いただき、調査へのご協力をお願いいたします。

2. 調査内容について

このアンケート調査は、現在、成人になられた広汎性発達障害の方々が、実際にどのような社会参加をしながら生活を過ごされているのか、その際にどのような困難があるのか、そしてそれは支援によってどのように軽減しているのか、などについて、関連することがらをご回答いただくものです。

3. 調査方法について

ご本人様には、ご本人様用のアンケートに、養育者様には、養育者様用のアンケートに、ご回答いただきます。いずれか一方の方でも、ぜひご協力ください。すべての項目にご回答いただくのに、約15分かかります。記入済みのアンケートは、それぞれ返信用封筒に入れて、お近くの郵便ポストに投函ください。

また、施設の方にも、支援者用のアンケートに回答いただきます。

4. 実施に当たっての危険性、不利益について

このアンケート調査は無記名で行います。アンケートでご回答くださる内容によって、危険や不利益が生じることはありません。また、プライバシー保護を徹底しますので、不利益が生じることはありません。

5. 謝礼について

ご協力いただいたご本人様と養育者様へ、それぞれ 500 円の図書券を進呈いたします。

別紙に希望の送り先を書いて、研究事務局までお送りください。

6. 調査結果の使われ方について

アンケート調査の成果は、ご本人様や養育者様のプライバシーなどが明らかにならないように、多数のデータを統計的に処理するなど十分配慮した上で、学会発表や学術雑誌上で公に発表されます。また、成果にもとづいて、これからの広汎性発達障害の方々への、長期的な見通しをもった支援のあり方を提案いたします。

7. 調査結果の報告について

あなたが希望されれば調査計画について記載した研究計画書、また成果が記載された報告書を提示いたします。報告書については、Web 上で公開する予定です。

8. プライバシーの保護について

ご記入いただいた内容は他の人に漏れないよう厳重に保管します。

9. 調査協力に同意しないことによる不利益について

アンケート調査にご協力いただけるかどうかは、あなたの自由な意思で決めてください。いったん、あなたが同意された場合でも、いつでも同意を取り消すことができます。それによって、あなたが不利益を受けることはありませんし、その後に回答記録が調査目的に用いられることはありません。

* 問い合わせ先

調査に関連したことで何かわからないことや心配なことがありましたら、いつでも下記までお尋ねください。

〒187-8553 東京都小平市小川東町 4-1-1

国立精神・神経センター 精神保健研究所

児童・思春期精神保健部

部長 神尾陽子

資料4 調査票の構成と有効回答数(N)、集計表の対応

	通所者			入所者		
	支援者 (N = 287)	養育者 (N = 227)	本人 (N = 202)	支援者 (N = 216)	養育者 (N = 232)	本人
支援者の基礎属性	○	—	—	○	—	—
回答依頼状況	○	—	—	○	—	—
養育者の基礎属性	—	○	—	—	○	—
基礎属性	—	表 1-6	表 1-6	表 1-6	—	—
現在の心身の状態						
下記以外	—	表 7-9	表 7-9	表 7-9	—	—
攻撃性の有無	—	表 8	—	表 8	—	—
現在の様子	—	表 10	表 10	表 10	—	—
主観的 QOL	—	—	表 11	—	—	—
周囲との関係性	表 12	—	—	表 12	—	—
これまでの支援等	—	表 13-21	—	—	表 13-21	—
自由記述等	—	表 22	—	—	表 22	—

※ 通所者用の調査票を、昨年度の報告書¹⁾に掲載している(P27-41)

表1 性別	通所者				入所者	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合
男	352	80.2%	181	79.7%	171	80.7%
女	87	19.8%	46	20.3%	41	19.3%
不明	4	—	0	—	4	—

表2 年齢	通所者				入所者	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合
-24	123	28.1%	91	40.1%	32	15.2%
25-34	167	38.1%	97	42.7%	70	33.2%
35-44	135	30.8%	37	16.3%	98	46.4%
45-	13	3.0%	2	0.9%	11	5.2%
不明	5	—	0	—	5	—

表3 居住形態	通所者				入所者	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合
一人暮らし	15	3.4%	15	6.6%	0	0.0%
家族と同居	212	48.2%	209	92.1%	3	1.4%
グループホーム	8	1.8%	2	0.9%	6	2.8%
施設入所	205	46.6%	1	0.4%	204	95.8%
入院	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
不明	3	—	0	—	3	—

表4 婚姻状態	通所者				入所者	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合
未婚	422	95.9%	208	92.0%	214	100.0%
同棲中	1	0.2%	1	0.4%	0	0.0%
既婚	14	3.2%	14	6.2%	0	0.0%
別居中	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
離婚経験あり	3	0.7%	3	1.3%	0	0.0%
配偶者と死別	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
不明	3	—	1	—	2	—

表5 最終学歴	通所者				入所者	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合
中学校	92	21.1%	29	12.8%	63	30.1%
高校	246	56.6%	118	52.2%	128	61.2%
養護学校(中高不明)	16	3.7%	3	1.3%	13	6.2%
専門学校	20	4.6%	19	8.4%	1	0.5%
短大	8	1.8%	8	3.5%	0	0.0%
大学	39	9.0%	39	17.3%	0	0.0%
大学院	5	1.1%	5	2.2%	0	0.0%
在学中	9	2.1%	5	2.2%	4	1.9%
不明	8	—	1	—	7	—

表1S 性別(本人回答, 通所者のみ)

男	152	75.2%
女	50	24.8%

表2S 年齢(本人回答, 通所者のみ)

-24	69	34.3%
25-34	88	43.8%
35-44	41	20.4%
45-	3	1.5%
不明	1	—

表3S 居住形態(本人回答, 通所者のみ)

一人暮らし	19	9.4%
家族と同居	180	89.1%
グループホーム	2	1.0%
施設入所	0	0.0%
入院	1	0.5%

表4S 婚姻状態(本人回答, 通所者のみ)

未婚	189	94.0%
同棲中	0	0.0%
既婚	4	2.0%
別居中	0	0.0%
離婚経験あり	8	4.0%
配偶者と死別	0	0.0%
不明	1	—

表5S 最終学歴(本人回答, 通所者のみ)

中学校	13	6.4%
高校	89	44.1%
専門学校	24	11.9%
短大	12	5.9%
大学	54	26.7%
大学院	8	4.0%
在学中	2	1.0%

表6 現在の仕事			通所者		入所者	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合
自営業	5	1.1%	5	2.3%	0	0.0%
会社員	11	2.5%	11	5.0%	0	0.0%
公務員	2	0.5%	2	0.9%	0	0.0%
家業手伝い	1	0.2%	1	0.5%	0	0.0%
アルバイト	25	5.7%	25	11.3%	0	0.0%
専業主婦	6	1.4%	6	2.7%	0	0.0%
訓練中	127	29.2%	56	25.2%	71	33.3%
休職中	3	0.7%	3	1.4%	0	0.0%
仕事をしていない	255	58.6%	113	50.9%	142	66.7%
不明	8	—	5	—	3	—

<継続期間>

1ヶ月以内	5	1.2%	5	2.3%	0	0.0%
半年以内	20	4.7%	20	9.3%	0	0.0%
1年以内	41	9.7%	28	13.0%	13	6.3%
3年以内	76	18.0%	61	28.4%	15	7.2%
5年以内	32	7.6%	19	8.8%	13	6.3%
5年以上	249	58.9%	82	38.1%	167	80.3%
不明	20	—	12	—	8	—

表7 診断名			通所者		入所者	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合
自閉症	260	58.7%	56	24.7%	204	94.4%
高機能自閉症	20	4.5%	20	8.8%	0	0.0%
アスペルガー症候群	81	18.3%	81	35.7%	0	0.0%
広汎性発達障害	61	13.8%	56	24.7%	5	2.3%
自閉症スペクトラム	4	0.9%	2	0.9%	2	0.9%
非定型自閉症	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
PDDNOS	9	2.0%	9	4.0%	0	0.0%
その他	8	1.8%	3	1.3%	5	2.3%

表6S 現在の仕事(本人回答, 通所者のみ)

自営業	1	0.5%
会社員	20	10.0%
公務員	3	1.5%
家業手伝い	4	2.0%
アルバイト	31	15.4%
専業主婦	2	1.0%
訓練中	38	18.9%
休職中	5	2.5%
仕事をしていない	97	48.3%
不明	1	—

<継続期間>

1ヶ月以内	14	7.1%
半年以内	28	14.3%
1年以内	35	17.9%
3年以内	55	28.1%
5年以内	15	7.7%
5年以上	49	25.0%
不明	6	—

表7S 診断名(本人回答, 通所者のみ)

自閉症	12	6.0%
高機能自閉症	19	9.5%
アスペルガー症候群	98	48.8%
広汎性発達障害	55	27.4%
自閉症スペクトラム	0	0.0%
非定型自閉症	0	0.0%
PDDNOS	11	5.5%
その他	6	3.0%
不明	1	—

表8 合併症等			通所者		入所者	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合
定期的な服薬 0/2	308	69.8%	126	55.5%	182	85.0%
てんかん発作の心配 1/2	111	25.2%	22	9.7%	89	41.6%
他の精神医学的診断 8/9	82	19.2%	72	32.9%	10	4.8%
ADHD	14	3.3%	11	5.0%	3	1.4%
LD	10	2.3%	9	4.1%	1	0.5%
うつ病	24	5.6%	24	11.0%	0	0.0%
不安障害	43	10.1%	38	17.4%	5	2.4%
統合失調症	9	2.1%	8	3.7%	1	0.5%
その他	11	2.6%	9	4.1%	2	1.0%
療育手帳 2/0	300	68.0%	85	37.8%	215	99.5%
精神障害者手帳 1/0 (等級)	94	21.3%	92	40.7%	2	0.9%
1級	6	6.9%	4	4.7%	2	100.0%
2級	57	65.5%	57	67.1%	0	0.0%
3級	24	27.6%	24	28.2%	0	0.0%
不明	7	—	7	—	0	—
身体障害者手帳 2/0	10	2.3%	3	1.3%	7	3.2%
他の身体の病気 2/1	46	10.5%	20	8.9%	26	12.1%
自傷他害行為 10/3	222	51.6%	82	37.8%	140	65.7%
自傷	109	25.3%	30	13.8%	79	37.1%
「死ぬ」等の発言	20	4.7%	17	7.8%	3	1.4%
重大な器物破壊	51	11.9%	15	6.9%	36	16.9%
家族への暴力	39	9.1%	22	10.1%	17	8.0%
家族以外への暴力	79	18.4%	12	5.5%	67	31.5%
「殺す」等の暴言	29	6.7%	23	10.6%	6	2.8%
武器の収集	1	0.2%	1	0.5%	0	0.0%
その他	71	16.5%	27	12.4%	44	20.7%

※ 項目の後ろに示すのは、不明である者の数(通所者/入所者)

表9 社会参加の程度			通所者		入所者	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合
かなりうまくいっている	8	1.8%	7	3.1%	1	0.5%
うまくいっている	55	12.5%	25	11.1%	30	14.0%
普通	198	44.9%	83	36.7%	115	53.5%
あまりうまくいっていない	138	31.3%	89	39.4%	49	22.8%
まったくうまくいっていない	42	9.5%	22	9.7%	20	9.3%
不明	2	—	1	—	1	—

表8S 合併症等(本人回答, 通所者のみ)

定期的な服薬	118	58.4%	0
てんかん発作の心配	9	4.5%	0
他の精神医学的診断	80	41.0%	7
ADHD	19	9.7%	
LD	12	6.2%	
うつ病	33	16.9%	
不安障害	36	18.5%	
統合失調症	5	2.6%	
その他	17	8.7%	
療育手帳	35	17.7%	4
精神障害者手帳 (等級)	102	50.5%	0
1級	4	4.0%	
2級	70	69.3%	
3級	27	26.7%	
不明	1	—	
身体障害者手帳	3	1.5%	1
他の身体の病気	32	15.9%	1

※ 欄外に示すのは、不明である者の数

表9S 社会参加の程度(本人回答, 通所者のみ)

かなりうまくいっている	4	2.0%
うまくいっている	27	13.4%
普通	69	34.3%
あまりうまくいっていない	75	37.3%
まったくうまくいっていない	26	12.9%
不明	1	—

表10-1 現在の様子

	理解や支援がない場合						
	困難は まったく ない	困難は あまり ない	やや 難しい	かなり 難しい	不可能 である	支援を 受けて いない	不明
(a) やるべきことを順序だてて行うこと							
困難はまったくない	18	4.1%					
困難はあまりない	196	44.5%					
やや難しい	135	30.7%					
かなり難しい	77	17.5%					
不可能である	14	3.2%					
不明	3	—					
	8	49	104	138	116	17	11
	1.9%	11.3%	24.1%	31.9%	26.9%	3.9%	—
	理解や支援がない場合						
	困難は まったく ない	困難は あまり ない	やや 難しい	かなり 難しい	不可能 である	支援を 受けて いない	不明
(a) やるべきことを順序だてて行うこと(通所者)							
困難はまったくない	15	6.6%					
困難はあまりない	118	52.2%					
やや難しい	65	28.8%					
かなり難しい	27	11.9%					
不可能である	1	0.4%					
不明	1	—					
	7	42	70	60	25	17	6
	3.2%	19.0%	31.7%	27.1%	11.3%	7.7%	—

理解や支援がない場合						
困難は まったくくない	困難は あまりない	やや難しい	かなり難しい	不可能 である	支援を受けて いない	不明
1	0	0	1	1	0	0
0	6	23	32	14	0	3
0	1	9	29	31	0	0
0	0	2	14	34	0	0
0	0	0	2	11	0	0
0	0	0	0	0	0	2
1	7	34	78	91	0	5
0.5%	3.3%	16.1%	37.0%	43.1%	0.0%	—

(a) やるべきことを順序だてて行うこと(入所者)	
困難はまったくくない	3 1.4%
困難はあまりない	78 36.4%
やや難しい	70 32.7%
かなり難しい	50 23.4%
不可能である	13 6.1%
不明	2 —

表10-1S 現在の様子(本人回答, 通所者のみ)

理解や支援がない場合						
困難は まったくくない	困難は あまりない	やや難しい	かなり難しい	不可能 である	支援を受けて いない	不明
6	3	2	1	0	6	3
4	33	22	4	2	19	1
0	4	18	30	3	13	4
0	0	1	10	3	4	0
1	1	0	0	2	1	1
0	0	0	0	0	0	0
11	41	43	45	10	43	9
5.7%	21.2%	22.3%	23.3%	5.2%	22.3%	—

(a) やるべきことを順序だてて行うこと	
困難はまったくくない	21 10.4%
困難はあまりない	85 42.1%
やや難しい	72 35.6%
かなり難しい	18 8.9%
不可能である	6 3.0%
不明	0 —

表10-2 現在の様子

(b) 相手の話を聞いて、理解すること	理解や支援がない場合						
	困難は まったく ない	困難は あまり ない	やや 難しい	かなり 難しい	不可能 である	支援を 受けて いない	不明
困難はまったくない	26	5	0	0	0	6	3
困難はあまりない	155	57	50	29	7	6	4
やや難しい	157	9	45	74	25	2	2
かなり難しい	93	0	4	32	56	1	0
不可能である	10	0	0	0	10	0	0
不明	2	0	0	0	0	0	2
		71	99	135	98	15	11
	3.2%	16.4%	22.9%	31.3%	22.7%	3.5%	—

(b) 相手の話を聞いて、理解すること(通所者)	理解や支援がない場合						
	困難は まったく ない	困難は あまり ない	やや 難しい	かなり 難しい	不可能 である	支援を 受けて いない	不明
困難はまったくない	25	4	0	0	0	6	3
困難はあまりない	103	47	35	9	2	6	2
やや難しい	73	8	32	24	5	2	2
かなり難しい	24	0	3	11	9	1	0
不可能である	1	0	0	0	1	0	0
不明	1	0	0	0	0	0	1
		59	70	44	17	15	8
	6.4%	26.9%	32.0%	20.1%	7.8%	6.8%	—

理解や支援がない場合							
	困難は まったくくない	困難は あまりない	やや難しい	かなり難しい	不可能 である	支援を受けて いない	不明
	0	1	0	0	0	0	0
	0	10	15	20	5	0	2
	0	1	13	50	20	0	0
	0	0	1	21	47	0	0
	0	0	0	0	9	0	0
	0	0	0	0	0	0	1
	0	12	29	91	81	0	3
	0.0%	5.6%	13.6%	42.7%	38.0%	0.0%	—

(b) 相手の話を聞いて、理解すること(入所者)	
困難はまったくくない	1 0.5%
困難はあまりない	52 24.2%
やや難しい	84 39.1%
かなり難しい	69 32.1%
不可能である	9 4.2%
不明	1 —

表10-2S 現在の様子(本人回答、通所者のみ)

理解や支援がない場合							
	困難は まったくくない	困難は あまりない	やや難しい	かなり難しい	不可能 である	支援を受けて いない	不明
	7	2	1	0	0	6	3
	3	29	29	4	1	19	1
	0	5	23	24	2	15	3
	0	1	3	9	5	4	2
	0	0	0	0	0	0	0
	0	0	0	0	0	0	1
	10	37	56	37	8	44	10
	5.2%	19.3%	29.2%	19.3%	4.2%	22.9%	—

(b) 相手の話を聞いて、理解すること	
困難はまったくくない	19 9.5%
困難はあまりない	86 42.8%
やや難しい	72 35.8%
かなり難しい	24 11.9%
不可能である	0 0.0%
不明	1 —

表10-3 現在の様子

(c) 自分の気持ちや考えを伝えること	理解や支援がない場合					
	困難はまったくくない	困難はあまりない	やや難しい	かなり難しい	不可能である	不明
困難はまったくくない	11	2	1	0	0	1
困難はあまりない	91	43	24	12	2	1
やや難しい	183	6	64	87	18	6
かなり難しい	136	0	8	61	63	1
不可能である	20	0	0	1	19	0
不明	2	0	0	0	0	2
		51	97	161	102	11
	1.4%	11.8%	22.5%	37.3%	23.6%	—

(c) 自分の気持ちや考えを伝えること(通所者)	理解や支援がない場合					
	困難はまったくくない	困難はあまりない	やや難しい	かなり難しい	不可能である	不明
困難はまったくくない	10	1	1	0	0	1
困難はあまりない	69	35	19	5	0	1
やや難しい	100	5	48	36	5	4
かなり難しい	43	0	8	19	12	1
不可能である	4	0	0	1	3	0
不明	1	0	0	0	0	1
		41	76	61	20	8
	2.7%	18.7%	34.7%	27.9%	9.1%	—

理解や支援がない場合						
困難は まったくくない	困難は あまりない	やや難しい	かなり難しい	不可能 である	支援を受けて いない	不明
0	1	0	0	0	0	0
0	8	5	7	2	0	0
0	1	16	51	13	0	2
0	0	0	42	51	0	0
0	0	0	0	16	0	0
0	0	0	0	0	0	1
0	10	21	100	82	0	3
0.0%	4.7%	9.9%	46.9%	38.5%	0.0%	—

(c) 自分の気持ちや考えを伝えること(入所者)	
困難はまったくくない	1 0.5%
困難はあまりない	22 10.2%
やや難しい	83 38.6%
かなり難しい	93 43.3%
不可能である	16 7.4%
不明	1 —

表10-3S 現在の様子(本人回答, 通所者のみ)

理解や支援がない場合						
困難は まったくくない	困難は あまりない	やや難しい	かなり難しい	不可能 である	支援を受けて いない	不明
6	2	0	1	0	4	2
2	10	17	3	1	17	2
1	4	32	21	2	20	2
1	1	8	24	7	6	3
0	0	0	0	3	0	0
0	0	0	0	0	0	0
10	17	57	49	13	47	9
5.2%	8.8%	29.5%	25.4%	6.7%	24.4%	—

(c) 自分の気持ちや考えを伝えること	
困難はまったくくない	15 7.4%
困難はあまりない	52 25.7%
やや難しい	82 40.6%
かなり難しい	50 24.8%
不可能である	3 1.5%
不明	0 —

表10-4 現在の様子

	(d) 公共の交通機関を利用すること					理解や支援がない場合						
	困難はまったくない	やや難しい	かなり難しい	不可能である	不明	困難はまったくない	困難はあまりない	やや難しい	かなり難しい	不可能である	支援を受けていない	不明
困難はまったくない	105	23.8%				71	12	2	2	1	12	5
困難はあまりない	121	27.4%				0	50	21	21	21	5	3
やや難しい	81	18.3%				1	2	17	22	37	1	1
かなり難しい	68	15.4%				0	1	4	13	45	4	1
不可能である	67	15.2%				0	0	1	6	44	16	0
不明	1	—				0	0	0	0	0	0	1
						72	65	45	64	148	38	11
						16.7%	15.0%	10.4%	14.8%	34.3%	8.8%	—

	(d) 公共の交通機関を利用すること(通所者)					理解や支援がない場合						
	困難はまったくない	困難はあまりない	やや難しい	かなり難しい	不可能である	困難はまったくない	困難はあまりない	やや難しい	かなり難しい	不可能である	支援を受けていない	不明
困難はまったくない	97	42.7%				69	11	0	0	0	12	5
困難はあまりない	78	34.4%				0	44	13	4	10	5	2
やや難しい	28	12.3%				1	2	12	7	5	1	0
かなり難しい	13	5.7%				0	1	2	5	5	0	0
不可能である	11	4.8%				0	0	1	3	6	1	0
不明	0	—				0	0	0	0	0	0	0
						70	58	28	19	26	19	7
						31.8%	26.4%	12.7%	8.6%	11.8%	8.6%	—